

チャレンジ農業！次のステージへ！

# 営農情報ならは

檜葉町産業振興課（令和2年10月号）

檜葉町の営農状況や農業者の意欲的な取組みをお届けします！



## 「収穫の秋」令和2年産米の初検査（9月25日）

檜葉町における今年産の水稻の作付面積は、240haで営農再開面積が段階的に拡大（28年20ha→29年32ha→30年58ha→元年175ha）しています。令和3年産米の作付予定面積については、約300haの見込みとなっており、平成22年産米の作付面積430ha対比で約73%の営農再開率になっています。

今年産米の初検査は、9月25日に檜葉町のントリーエレベーターで実施され、検査に先立ち、関係者約30名が検査期間中の安全祈願を行いました。当日の検査結果については、水稻うるち玄米（約900袋）全量が1等米に格付けされました。



作業中の青木さん

### 令和3年産米の品質向上に向けて

近年、カメムシの吸害による着色粒が県内各地でも散見されている状況です。檜葉町は、令和3年産作付けに向けて福島県双葉農業普及所やJA福島さくら等の関係機関と連携を図り、防除回数や適期防除等について協議し、カメムシ対策を徹底する等して、着色粒の混入防止と品質向上に取り組めます。

檜葉町木戸地区の緑川英樹さんは「木戸の交民家」という民泊等の古民家を運営しており、農業体験を通して檜葉町の交流人口の増加や移住・定住促進に向けた取組みを積極的に取り組んでいます。

また、10月の稲刈り時には、古民家のオーナー家族やボランティア大学生、外国語支援教師（ALT）の方々と「天日干し」による自然乾燥での稲刈り体験等を行ないました。



刈取り中の緑川さん

## 「五感で楽しむ秋の味覚♪」道の駅ならは物産館

物産館には、檜葉町内外で収穫された野菜や果物等が販売されています。現在の出荷者は、檜葉町や近隣市町村の33名と増加傾向です。町の支援策でパイプハウスを整備した農業者の野菜が直売所に並ぶ日が待ち遠しい。完熟堆肥で育てる熱心な農業者のピーツやケール等の健康野菜、新鮮な旬の野菜をご賞味下さい。なお、物産館では、農水大臣賞を受賞した食生活改善推進委員会、農業者や栄養士等町の関係者と連携し、栄養と健康に関するポップやレシピづくり等を通して、農産物の出荷・品目数や来場者数と併せ健康面もアップするような取組みを積極的に展開する予定です。



檜葉町産の野菜等

## きれいな水と空気、里山を次世代に引き継ぎたい！



松本広行さんの水田

檜葉町の松本広行さんは、震災前から有機栽培に取り組んでおり、県双葉農業普及所や役場担当者の助言等を受け、安心して安全な米作りを目指しています。近年、地域の仲間も有機栽培を目指した米作りに共感し取り組んでいます。松本広行さんは、「きれいな水と空気、里山を次世代に引き継ぎたい！」という思いを抱いており、井出川地区全体を「有機の里」として環境にやさしい農業を目指しています。なお、堆肥については、生産工程が管理された有機栽培に適合した堆肥を利用する方針です。



発行日 令和2年10月  
発行 福島県檜葉町  
編集 檜葉町産業振興課

〒979-0696

福島県双葉郡檜葉町大字北田字鐘突堂5-6

TEL：0240-23-6104 FAX：0240-25-1234

チャレンジ農業！次のステージへ！

## 【甘藷】猪狩富夫さんのチャレンジ3年目！

檜葉町で甘藷栽培に取り組んでいる認定農業者の猪狩富夫さんは、町内のほ場に約1.5ha作付けしており、9月28日から甘藷の収穫作業が始まりました。主な作業としては、①防草用の黒マルチを除去、②甘藷のツル切りと回収作業、③収穫機械（ポテカールゴ）にプラスチック容器をセット後に収穫と選別作業、④500kg収容可能な鉄コンテナに甘藷を移し替え、⑤収穫後に甘藷の貯蔵施設に搬入が、一連の作業工程になります。猪狩さんは、来年の作付けに向けて収穫後に完熟堆肥を施肥（2t/10a）し、地力回復と土壌改良を行い連作障害を防ぐ観点から後作にタマネギを定植予定です。



甘藷の生産ほ場



甘藷のツル切り作業



収穫機械の準備作業



鉄コンテナ(500kg)



甘藷施設に搬入



檜葉町は、甘藷の貯蔵施設と機械倉庫を福島再生加速化交付金で整備し、施設や機械等は「福島しろはとファーム」に貸与しています。産業振興課は、令和3年度から甘藷栽培に取り組む生産者に貸与可能な機械等の利用方法や収穫等の共同作業の仕組みづくりを協議しています。

甘藷栽培に興味・関心のある方は、檜葉町産業振興課にお問い合わせ下さい。また、令和3年度に作付けを予定している農業者の皆様につきましては、「甘藷栽培作付申出書」を提出していただく予定です。

産業振興課は、チャレンジする農業者を全力でサポートします！

## 【ユーカリ】花木栽培で新たな産地づくり！



ユーカリの品種「銀世界」

9月29日、檜葉町上繁岡地区の塩井さんのユーカリほ場において、檜葉町や双葉郡の生産者を対象に、研修会が開催されました。

檜葉町で栽培に取り組む農業者と新規就農者が組合を設立。現在、8名の農業者が約2haのほ場に「銀世界」や「グニー」という品種を栽培しています。農業者は、支援事業等を活用し、農業機械や苗木の導入を図りながら、栽培技術と品質向上に向けて取り組んでいます。大田市場の花き担当者から「選別等を適正に行い、良質なユーカリを安定的に出荷し、新たな産地づくりを目指しましょう！」とのコメントがありました。

## 【タマネギ】栽培技術を確認し安定生産を目指す！

檜葉町のタマネギ栽培は、平成29年から始まり、現在4名の農業者が約5ha作付けしています。

育苗については、JA福島さくらの担当者が栽培管理を中心的に担い、播種作業等については農業者も協力し、共同で作業を行っています。

今年、6月上旬から収穫作業が行われました。昨秋の台風等の影響により、定植作業が進まなかったことから生育状況については、やや小玉傾向でしたが「浜の輝（はまのかがやき）」の特徴である甘みが魅力です。

檜葉町は、タマネギを野菜の指定産地の対象とするよう国や県に対し要請しています。



品種は「浜の輝」